

韓国に於ける現地語のお題目に就いて

佐久間 晴年

私は研究者ではありません。本日の「現宗研・教化学研究発表大会」に適した報告ができるかどうか解りません。その点を斟酌してお聞き戴けますと幸甚です。

昨年 北米開教百周年を迎えました。今日海外の日蓮宗の布教所は、約三十カ所、相当する開教師もおられます。韓国のソウルと釜山に日蓮宗の寺があり、禹法顕上人が開教師の辞令を受けて活動している事はご存知でしょうか。私はこの寺ができます初期から二十年間関わりました。

昨年十月、ソウルの慶熙大学を会場に日韓仏教学術フォーラムが開かれました。日蓮宗主催、禹法顕上人のご尽力で実現しました。日本から立正大学北川教授と現宗研三原所長のお二人と韓国人の先生お二人がご出席になりました。私も聴講させて戴きました。これがご縁で本日の大会で発表する事を三原所長から勧められました。

さて昭和二十年太平洋戦争が終わる前までは、ハワイは勿論、米国・樺太・満州・朝鮮・蒙古・北支・中支・台湾・マレー半島と云った地域に、日蓮宗と云うより日本仏教の殆どの宗派による布教が成されたか布教所があったと言われています。アジア側は、終戦と共に日本人が引き揚げ布教所は閉鎖、開教師も帰国。それだけ現地の人達への布教ではなかった。逆にそこに日本人がいたという意味でもあります。

その点米国では、戦争が始まると間もなく、米国在住の十万人を超える日本人・日系人は敵性外国人として、全米十数ヶ所のキャンプ、日本語で言えば強制収容所に収容された事は、再三ドラマにも成りTVでも放映されご存じだ

と思います。

当時開教師だった私の伯父荒川要博上人とその家族も三年半收容されました。苦労の中にも意外な事に宗教の布教活動には制限はなかり版刷りのお経本を拵えて活動、今私の所に一冊だけ残っています。

終戦と共に收容所から解放された日系人たちは、以前に住んでいた町に戻る人が多く、それと共に実に細々とはあるが教会が再開されました。アジアでは壊滅した布教所・教会が米国では再開された訳です。

米国内では昔も今もキリスト教が圧倒的に多い。教会に特色があり、スコットランド系教会、イタリア系教会、中国系教会、日本人日系人の教会がそれぞれ存在します。

三十年程前、シカゴ日蓮仏教会に白人が訪ねてきたそうです。どんな人でも訪ねて来てくれれば喜ばなくてはいけないのに、つい「何しに来たんだろと考えてしまった」と当時のシカゴ日蓮仏教会理事長の告白する記事が日蓮宗新聞に載っていました。

さてその後、日蓮宗では白人の開教師が数多く誕生しています。特に米国で。そのキツカケは、元学会を信仰し疑問を感じて日蓮宗に改宗した人たちです。そもそも米国内で学会が布教を始めるきっかけは、日本に駐留した米軍兵士と結婚した日本人女性の多くが、昭和三十年頃から夫の帰国と共に米国に渡り、お友達がいらない・言葉が解らない。不安な毎日をごすそれらの人達へ学会の布教が始まりました。以降拡大の一途を辿り大きな勢力になっています。

さて韓半島では、昭和二十年の終戦までに日蓮宗の布教所は約四十カ所ありましたが、他のアジア地域と同じ理由で全て壊滅しました。つまり布教の対象の日本人がいなくなった訳です。

近年の韓国での学会の布教のキツカケの一つは、在日韓国人の学会信徒のうち、韓国へ帰国した人達の中に帰国後も同様に折伏活動をした事です。つまり韓国人が韓国人に布教をした事が大きな力になった訳です。

アメとムチによる学会の布教は、強烈に現世利益を期待する韓国人の宗教観と見事に一致し、今日の韓国の人口は

四千五百万人。学会は最盛期にはその一割が学会信徒だったと自称しています。

韓半島の「高句麗」「百濟」「新羅」の三国の時代、大和朝廷は「百濟」と最も親しくしており、六世紀半ばに当時の百濟の都「扶余」から日本に仏教が伝わったとされています。韓国が仏教国だったのは三国の時代とそれに続く「統一新羅」の時代です。李氏朝鮮は儒教が最も尊ばれ今日に至っています。宗教は往々にして時の政権に依り盛衰が決まります。今日の韓国は仏教国ではなく、儒教の国です。とは云え、仏教が絶えた訳ではありません。今日有名な仏国寺も海印寺も法住寺も通度寺も梵魚寺も有名寺院は新羅の時代から続いている寺です。この事は、韓国では一千五百年以上も仏教が信仰され読経が続いている事を意味します。これら寺院では「大雄殿」「大雄寶殿」と呼ばれる本堂にお釈迦様を祀っています。それ程にお釈迦様を大切にしています。

そんな土壌の中、韓国人信徒達は日蓮正宗・創価学会の「日蓮本仏論」を聞かされて仰天します。我々日蓮宗の久遠実成の釈迦牟尼仏ではなく、末法では釈尊は「抜け殻」とする考えに疑問を持ち質問をしようものなら「謗法」と批判に晒される。とうとう学会を止めようと決心するが「お題目」は止めたくない。という強情な信徒たちの一部が正しい教えを求めて来日、日蓮宗の指導者を探し始める。何人も経てついに、市川市高石神、泰福寺影山信雄上人に巡り会います。師は話を聞いてこれは放っておけないと間もなく訪韓し始める。皆が集まってお題目を唱える場所が必要、改宗するからには日蓮宗のご本尊が必要など、準備が急ピッチで進み一九九二年ソウル市内に寺が完成、開堂供養に漕ぎ付きました。とは言え貸ビルのワンフロアを借り、ご本尊を祀った布教所です。ですが歴史的第一歩です。改宗した信徒たちにとって大きな大きな一歩です。

影山師は月曜日に訪韓、金曜日に帰国、週末は自坊の法務、という状態が続ききました。当時まだ訪韓するにはビザが必要でした。影山師の取得したビザは「布教」ビザではなく「佛教修学」の為のビザであった事が判明、これほど頻繁に訪韓した影山師の入国ビザは取り消され一挙に入国禁止処分となり、数年間続きました。それがキッカケで、

私始め数人が応援を求められました。

影山師も私も韓国語はできない。それをカバーしてくれたのは日本語のできる信徒、取り分け昭和二十年終戦当時中学生以上だった人、学会信徒だった人、がこれに適任でした。これらの人達に依る助力が無ければ布教はできなかつたでしょう。

法会は、初めは信徒の家に集まる座談会といい、数が多くなればどこかに部屋を借りて@@寺と称する。読経・唱題そして法話、相談を受け指導する。これの繰り返しです。信徒は家庭の悩み、仕事の不満、健康上の心配、あらゆる相談に来ます。解りませんと言う返事は極めて困難。「次回までに調べてきましょう」こう言えるまでには時間と勇気が必要でした。「日本に帰って次回まで祈願をするから貴方は家でお題目を唱えて下さい。」の一言を忘れず付きました。

私が韓国で初めて修法（祈祷）をした際、彼らは木剣に依る加持を「何をしているのか」と口をあんぐり開けて上目使いに見られました。彼らは学会時代に祈祷を受けた事はありませんでした。そこで荒行の事、鬼子母神様の事、木剣の事を全て話しました。次回からは合掌し頭を垂れお加持を受けてくれました。

当初韓国に於ける読経とお題目は、ほぼ学会式のそれを踏襲しました。私はとても辛いものでした。お題目は日本語で読経の方便品と寿量品は韓国発音です。ただ、発音する「妙法蓮華経」の部分だけは日本語です。

漢字では全く同じですが、既に千年以上韓国発音で読経をされてきた歴史があります。日本での発音と異なる発音が多くあります。漢字圏の地域では必ずこの問題が起きるでありましょう。そこで影山師が一つの決断をしました。全て韓国発音にしようとの決断です。全てとは「お題目」も含めます。この意味を信徒に充分伝達して時間をかけ実施しました。今はこれに統一して唱えています。（別紙参照）

もともと韓国人信徒は日本語ではお自我偈すら読めませんから、身延山を始め、日本の寺に参拝ご開帳の際、引率

する私が韓国発音で発音して読経・唱題し、ご回向のみお願いする形にしています。

百周年を迎えた米国で、英語を母国語とする開教師が誕生するのに八十年程かかっています。それが韓国では約十年で実現しました。信徒の長男であった禹喜太君が影山師の弟子となり来日、立正大学宗学科に入学、学寮で四年間を過ごしました。信行道場を修了して日蓮宗開教師の辞令を受けソウルに赴任、二年前、加行所にて目出度く四行を成満しました。その祈願により平成十九年十月八日ソウル郊外の広州市に木造本堂が完成。信徒の必至の協力は無論だが、日本国内の多くの寺院の絶大なご協力を頂戴した事を永遠に伝え残さねばならないと思います。

禹法顕師への繋ぎの意識で、小生が今日まで二十年間に訪韓した回数は約百五十回。役割が果たせたと思います。お祖師様の導きでした。

機会を下さった影山師にも後継の禹師にも感謝。一緒に笑い、一緒に涙した韓国の信徒達に感謝。ひたすら心配をかけた女房にも感謝。

以上

若し韓国に興味のある方には別途資料を差し上げます。ご一報下さい。

P C Eメールアドレス lotus_y_man@icnet.ne.jp

F A X 〇四七―七〇五―九六九五



聖日實居士に回釈
尊像をまつり、昨年十二
月十三日、開眼供養が盛
大に行われた。

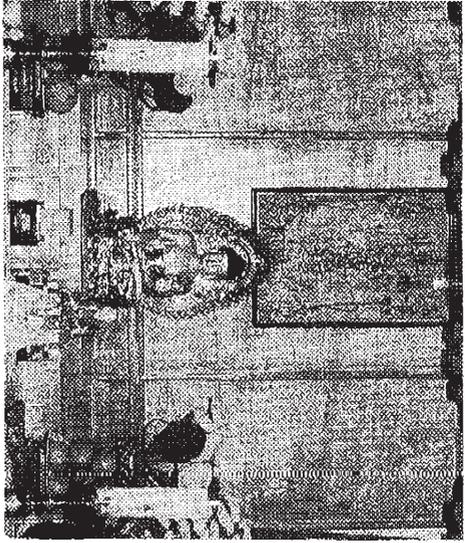
金し、念願の金銅製釈尊
像をまつり、昨年十二
月十三日、開眼供養が盛
大に行われた。
韓国の日蓮宗寺院で
は、宗定の日蓮聖人の大
四菩薩は今回まつられ
て、その造像奉安を計画
している。

日蓮宗海外布教の一翼
を担って韓国に教線を広
げている千葉県市川市泰
福寺の影山信雄住職は、
韓国での傘下に三カ寺
を擁するまでになってい
る。以下、

釜山實成寺では、かね
て仏像本尊をまつりたい
杯になり、日本からも影
山師のほか、佐久間隆年
と希望し、信徒会長・崔
炳道氏を中心に信徒が拠
所を擁するまでになってい
る。以下、

大曼荼羅に釈尊像

和弘師(行伝
寺住職)が参
列し、信徒と
共に読經、鐘
を叩き、唱題して式を終了
した。



新たに相られた釈尊像 (手前・聖人像)

崔信徒会長は「實成寺
信徒のほとんどが日蓮正
宗からの改宗者で、仏
像、本尊を奉れば正宗の
臭いが消えて、日蓮宗の
信仰に一層自信を深める
ことが出来る」と、みんな
喜んでいますが、仏像を奉
ることで、韓国社会への
とけ込みが容易になるか
ら、広宣流布に弾みがつ
くことは疑いがないこと
です」と喜びを語った。

